国指定重要文化財

草野家住宅 平成の大修理

河津建設株式会社 施工

草野家住宅の第一期工事を河津建設(株)が受注し、(公財)文化財建造物保存技術協会(以下文建協)と共に工事を進めています。文建協所長の比嘉健さんと担当技術者下条幸紀さん河津建設(株)の現場所長武石英昭さん、担当技術者の宿利康介さんや職人さん達と意思の疎通を図りながら工事を進めています。

草野家住宅は江戸時代から増改築がされているため、解体時には、釘の形や材の切り口の断面などでいつの時代に作られたかが判断されます。「草野家住宅は、敷地内に江戸期からのいろんな時代の建物が建っていること。また、煎茶道をするために増築した建物があるなど、いろいろな時代の要素が詰まった建造物になっています」と比嘉健さん。今後は、調査を進めながらどの時代の草野家住宅に保存修理するかを決めていきます。

歴史を受け継ぎ、それを後世に残す『思い』

草野浩輔さん

草野本家。国指定重要文化財でありながら草野浩輔さんにとっては、小さい頃から身近にある生活の一部です。今は、家の防災管理者を務め年に数回の消防署の確認にも対応しています。台風、大雨の季節には、閉めにくくなった雨戸を家族総出でするのも風物詩なのかもしれません。

今回の大修理工事は「現状維持、新しくつけたさない永く保存するための修理です」と浩輔さん。施工会社さんとも意思の疎通をしながら進められればと話します。おひなまつりを始め、端午の節句、日田祇園祭、天領まつりと年に4回一般公開されている草野本家。「日田市内の方にもぜひご覧頂きたいです。庭も含めた住宅全体が文化財に指定されています。ぜひその全体の雰囲気を感じて欲しいです」と話す浩輔さんは、「次世代に草野本家を継いでゆく」そんな想いと共に今後豆田地区全体の事、日田市の観光資源としての活用を未来に向けて考えていきます。

未来へ引き継ぐ歴史的建造物

寛永18年(1641年)豆田町に屋敷を構え、元禄9年(1696年～元禄元年との説もある)現在地に新居を建て現在に至る草野本家は、平成21年12月8日「草野家住宅」として、主屋1棟、蔵3棟及び庭園が国指定重要文化財に指定されました。

草野家住宅は江戸時代元禄の頃現在地に創建されて以来明治中期まで増改築をされた建造物です。従って建築後300年近いものから新しいところでも100年以上が経過し、老朽化が進んでいます。現在、国指定重要文化財としておよそ10年をかけての全面保存修理工事が行われます。

草野家住宅主屋ほか5棟保存修理工事の第1期工事を、河津建設㈱が受注し取り掛かっています。この保存修理工事は長期の工事を予定しているため、河津建設㈱の河津龍治社長から息子の河津賢太郎さんに任せ、草野家では、当主の草野義輔さんから息子の草野浩輔さんへ次第に担当を任せていくことになるでしょう。草野家住宅の歴史を後世へ繋げる役目と、それの保存修理を手がける河津建設。若い世代へ託し、第1期工事は着々と進んでいます。

修復には10年近く(第1期工事2年3ヶ月)が掛かるため、互いに息子達へ任せた。

[全面広告]